



株式会社ショクブン

2025年3月期 決算補足説明資料
(2024年4月1日～2025年3月31日)

2025年3月期 決算ハイライト

2025年3月期 本決算概要

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期						
	通期	構成比	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	構成比	前年度比
売上高	6,393	100.0%	1,478	1,420	1,681	1,479	6,060	100.0%	94.8%
売上総利益	2,432	38.0%	568	511	649	527	2,257	37.2%	92.8%
営業利益	51	0.8%	△9	△54	83	△3	16	0.3%	32.6%
経常利益	50	0.8%	△10	△57	75	△4	2	0.0%	4.6%
親会社株主帰属 当期純利益	△15	－	△21	△103	55	△0	△69	△1.2%	－

当連結会計年度の業績は、売上高が60億60百万円(前年度比94.8%)、営業利益が16百万円(前年度比32.6%)、経常利益は2百万円(前年度比4.6%)、親会社株主に帰属する当期純損失は、69百万円(前年度は15百万円の親会社株主に帰属する当期純損失)となりました。

商品別売上高

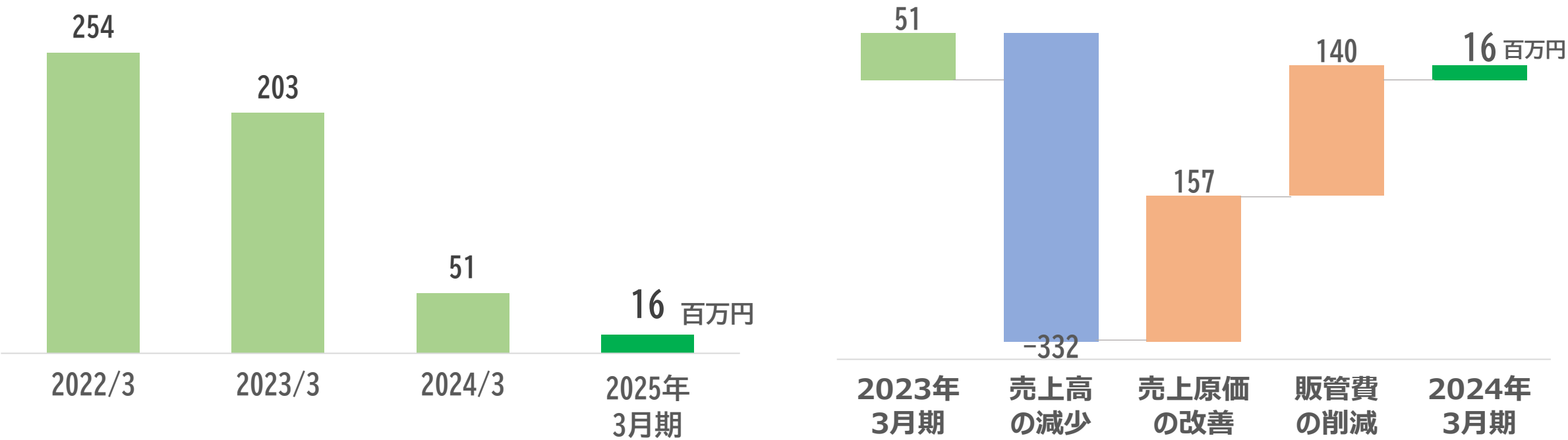
2025年3月期 本決算概要

(百万円)	2024年3月期					2025年3月期					
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	前年度比
メニュー商品	1,535	1,429	1,482	1,403	5,851	1,405	1,363	1,396	1,387	5,553	94.8%
特売商品	57	88	298	98	542	73	57	284	91	507	93.6%
合計	1,592	1,517	1,780	1,502	6,393	1,478	1,420	1,681	1,479	6,060	94.9%
構成比 (対通期)	24.9%	23.7%	27.8%	23.5%	100%	24.4%	23.4%	27.7%	24.2%	100%	

- ・ 前期との対比では、メニュー商品売上高94.8%、特売商品売上高93.6%、合計売上高94.9%となりました。
- ・ 例年と同様、年末の特売により、第3四半期の構成比率が高くなりました。

営業利益の推移

2025年3月期 本決算概要



売上高につきましては、外食チェーンとのコラボ企画やご当地グルメの導入、栄養コントロール弁当の取扱い開始などの施策を実行しておりましたが、物価上昇による節約志向の高まりによる影響で、売上高は減少致しました。

営業利益につきましては、人件費の変動費化や原価管理の徹底などを行いましたが生鮮品、加工食品等の値上がりや、人件費、エネルギー価格の上昇等により16百万円（前年度比32.6%）となりました。

貸借対照表の概要

2025年3月期 本決算概要

(百万円)	2024年 3月期	2025年 3月期	増減
流動資産	2,018	1,765	△253
固定資産	3,516	3,444	△72
資産合計	5,534	5,209	△325
流動負債	1,843	1,819	△24
固定負債	1,093	959	△133
負債合計	2,937	2,778	△158
純資産	2,597	2,430	△166
自己資本比率 (%)	46.9	46.7	
負債純資産合計	5,534	5,209	△325

【資産】
現金及び預金等が2億96百万円減少したこと等に伴い、資産合計は前連結会計年度末に比べ3億25百万円減少の52億9百万円になりました。

【負債】
長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が1億45百万円減少したこと等に伴い、負債合計は前連結会計年度末に比べ1億58百万円減少の27億78百万円になりました。

【純資産】
退職給付に係る調整累計額が58百万円減少および剰余金の配当により利益剰余金が108百万円減少したこと等に伴い、純資産合計は前連結会計年度末に比べ1億66百万円減少の24億30百万円になりました。

キャッシュ・フローの動向

2025年3月期 本決算概要

(百万円)	2024年 3月期	2025年 3月期	増減
営業活動による キャッシュフロー	219	13	△205
投資活動による キャッシュフロー	△63	△15	48
財務活動による キャッシュフロー	△326	△294	31
現金及び現金同等 物増減額	△170	△296	△125
現金及び現金同等 物期末残高	1,687	1,390	△296

期末の資金は、前期末との対比で2億96百万円減少し、13億90百万円になりました。

【営業活動によるキャッシュ・フロー】

税金等調整前当期純利益1百万円、減価償却費1億62百万円を計上しましたが、退職給付に係る資産の増減額56百万円、未払金の増減額25百万円計上したことにより、増加した資金は13百万円となりました。

【投資活動によるキャッシュ・フロー】

有形固定資産の取得による支出14百万円等により、減少した資金は15百万円となりました。

【財務活動によるキャッシュ・フロー】

長期借入金の返済による支出1億45百万円、リース債務の返済による支出1億10百万円等により、減少した資金は2億94百万円となりました。

配当の状況

2025年3月期 本決算概要

		2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期
1株当たり純資産額	(円)	149.72	162.61	171.44	169.36	158.47
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円)	— (—)	5.00 (—)	5.00 (2.50)	5.00 (2.50)	2.50 (—)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失 (△)	(円)	19.32	14.37	17.41	△1.03	△4.56
配当性向	(%)	—	34.8	28.7	—	—

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題として位置付けており、配当政策は、株主の期待に応える長期的かつ安定的な配当の実現を基本方針としております。

株主優待制度について

2025年3月期 本決算概要



富山県北アルプスの天然水仕立て
入善町こしひかりパックご飯

- 当社は、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に保有していただくことを目的として、株主優待制度を実施しております。
- 2023年3月期より、これまで1,000株以上保有の株主様のみを優待対象としておりましたが、500株以上保有の株主様も対象に含めて株主優待制度を実施しております。

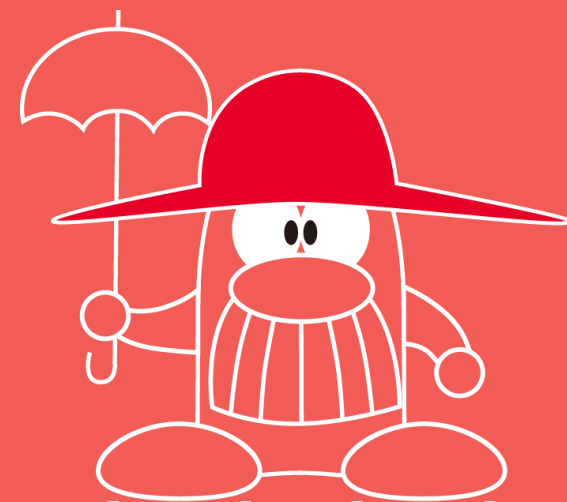
保有株式数	優待品
500株以上1,000株未満	富山県産コシヒカリを使用した パックご飯（10パック）
1,000株以上	富山県産コシヒカリを使用した パックご飯（24パック）

6月中旬～7月上旬にかけて発送致します。

2025年3月期 取組状況

株式会社ショクブン

SHOKUBUN



商品強化

2025年3月期 取組状況

お客様によりご興味を持って頂ける様、新たな商品の開発に日々取り組んでおり、2025年3月期においては、年末商戦に松茸入りすき焼きセットや、サイズアップしたカニを掲載し大変ご好評頂きました。

2人前セットで販売している冷凍時短ミールキット「Speedish」に当社オリジナルラインナップを追加。電子レンジ調理のみで召し上がって頂ける惣菜など消費者生活に沿った商品開発を行っております。



例年人気のすきやきセットに、香り高い**ブータン産の松茸**をプラスしたセットを販売しました。



包丁いらずで、フライパン1つで完成する冷凍ミールキット**Speedishの自社開発**を開始しました。



湯せん調理中心であった当社PB商品に**電子レンジ調理**が可能な商品ラインナップを追加しています。

コスト削減

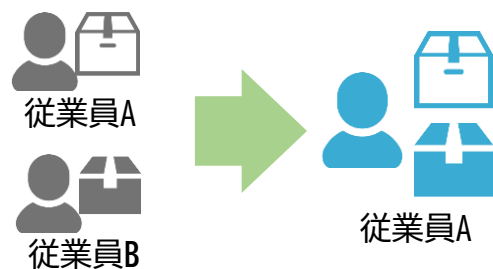
2025年3月期 取組状況

コスト対策

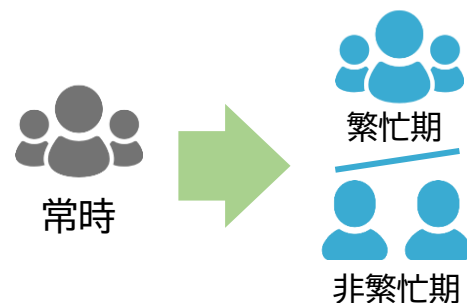
従前実施している効率化策を日々推進しており、多能工化、シフト制の導入に加え、新たに一部原料加工の内製化をスタートさせました。

これらの効果は着実に表れ、固定費の変動費化が推進されております。

多能工化



シフト制



自動化

配送効率化

加工内製化

仕入時点で加工を外注していた鶏肉の加工・リパックを内製化。

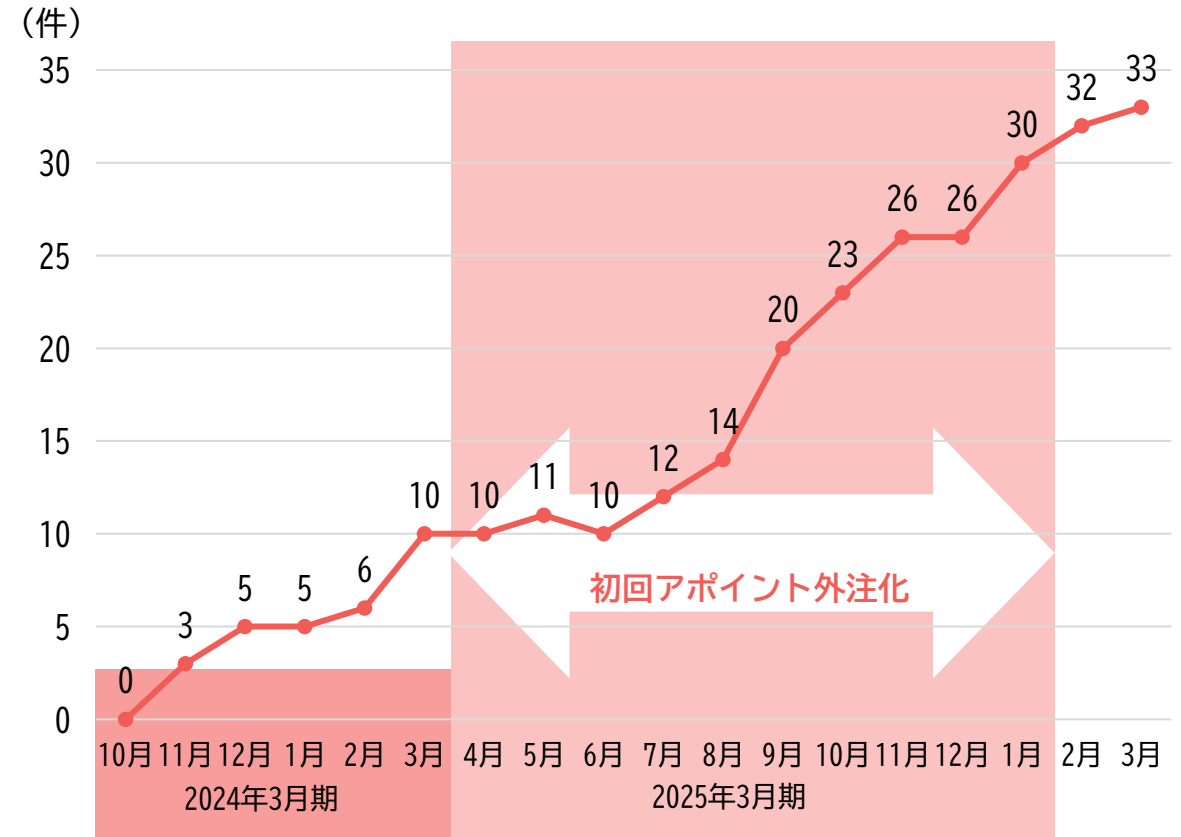
施設向け事業

2025年3月期 取組状況

施設向け事業

2023年10月より本格化しております、特養ホーム、介護施設などに向けた施設向け事業は営業の初回アポイントを2024年4月～翌年1月まで外注化し、成約件数は順調に推移しており、新たな事業の柱としてより一層の注力を致します。

施設向け事業成約件数推移



その他外販事業

(株)不二家と冷蔵自販機の代理店契約を継続する他、法人向けの中ロット受注も行っております。



直近の取組

2025年3月期 取組状況

4月7日お届け商品より、主要メニューに対して値上を実施致しました。
より高品質、より安心して召し上がって頂ける様な商品をご提供すべく食材にこだわり、新たな原材料の仕入れを推進しております。

今後も、様々な食材を強化し、付加価値の高い商品を提案してまいります。

愛知県三河地方
ブランド豚「三河おいんく豚」



伊勢神宮へも奉納される
伝統製法による「干物」



愛知県常滑産
安定供給・新鮮安心な野菜



鹿児島漁港水揚げ
「初かつお」



静岡県特産
駿河湾「桜エビ」



手延製法によるパスタ



組織変更について

商品開発の強化

メニュー開発部門を2課構成へ変更。
1部門を2課に分けることで、競争原理を促進し、商品性アップにも期待しております。

マーケティング戦略の強化

マーケティング部門をシステム推進部門の傘下へと変更。
顧客情報の収集・データ活用を推進し、より効果的なマーケティング戦略の実施を目指します。

株式会社タツノコプロとのライセンス契約

2025年4月より株式会社タツノコプロとのライセンス契約を締結。
親しみ深いキャラクターと共に当社企業イメージ、知名度の向上に尽力致します。



©タツノコプロ

本資料にかかる免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

また、本資料が基礎とした情報の中には、決算短信及び四半期報告書の財務諸表に基づく財務情報並びに財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれており、いずれも独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていないことをご了承ください。